

銀座水族館 (七つの海の魚および水産切手)

—(11)—

東京支店 営業第一課 神原 勇

マトダイ目 マトダイ科 マトダイ

学名 *Zeus japonicus*

英名 john dory

和名 マトダイ・マトウオ・マトウダイ・マト

全世界の暖海に分布し、我国では中部以南に分布するが、福島県小名浜沿海でも見る事がある。体側に白で縁どられた大きな黒褐色の円形斑紋が弓矢の的に似ている事からマトダイと呼称されるが略してマトと呼ぶ事もある。

体は左右に平らで体高が高く、木の葉の様な形で、頭部は比較的大きく眼は額の近くにある。大きな口は斜めに切れ込んでいるので、側面からは口を「へ」の字に結んだ様な難しい顔の表情を見る事が出来る。体色は非常に地味で、成魚と幼魚とは異なり、沿岸の藻の繁茂するところに生息する幼魚時代は淡黄色で、成魚になると青色又は褐色味を帯びた銀色に変ってくる。幼魚・成魚共に前述の様な円形斑紋を有する。餌を追うときや驚いたり興奮したりすると、背ビレをピンとたてて、体色は暗黒色に円形斑紋に濃く急激に変化する。ヨーロッパ産のものは体色は淡黄緑色か灰色で、黄色で縁どられた大きな黒い斑紋がある。

斑紋の位置により *Zeus* 属は次の如く分類される

*faber* 種 斑紋が側線上方か、又は全くないもの

*japonicus* 種 斑紋が側線上方にあるもの

*pungio* 種 斑紋が側線下方にあるもの

第一背ビレは10本の軟条からなり、前部の6条をつなぐ膜が長く延びてその先端は糸状となり尾

ビレに達する事もある。第二背ビレは軟条だけであすかに動く。小さく丸い鱗は皮下に埋っているので、体表は滑らかである。

木の葉の様に薄く、泳ぎは早くなく寧ろ遅い魚で、一般的に動きの鈍い肉食魚は相手にさとられない様にそっと近づいて捕食するものであるが、マトダイはその典型的な魚で、獲物を見つけると第二背ビレとシリビレを使い静かに近づき、歯のない大きな口をすばやくつき出して獲物を喰み込む。相手方から見ると体が薄いので一本の線のように見える。獲物としての餌は生きた小魚のみを捕食し、死んだものは食べても吐き出してしまふ。時として小エビを食する事もある。

深さ100m~140mのところの生息しているが、冬季は10m~20mの浅い砂礫地に移動する。6~8月頃海底の砂の上に産卵する。卵の直径は2.5mm程度で比較的大きい方である。成魚では50cm位になる。

風変りなスタイルにも拘らず味は良く、産卵をひかえた4~5月頃がシュンにあたり、刺身・煮付・カマボコの原料とする。特別な漁法はなく他の底曳魚類と共に漁獲される。

カトリック教徒の間では、この魚の黒い斑紋は使徒ペテロがキリストの税金を納入するため、マトダイの口から貨幣を取り出したときについた指の跡だといって敬めている。ドイツでは「ペテロの魚」と呼んでいる。

この魚の属名はギリシャ神話の神々の主である *Zeus* の神の名が冠せられている。

マトダイ目 マトダイ科 マトダイ

学名: *Zeus japonicus*

英名: john dory

和名: マトダイ・マトウオ・マト

地中海・アフリカ・濠洲・我が国南中部以南に分布する。深さ60~70m、泥多い海底に棲み、4~6月頃湾性卵を産卵する。風変りな体形に拘らず産卵がヒカヘフ4~5月頃がシュンで可成り美味である。刺身・煮付・カマボコ、原料とする。特別な漁法はない。体色は青色又は褐色又は銀色で側線中央の周囲が白色でカマボコは青黒色、大イサギ斑紋があり、この斑紋の位置により下記4種に区別される。

*faber* 種: 斑紋が側線上方か又は全くないもの

*japonicus* 種: 斑紋が側線下方にあるもの

*pungio* 種: 斑紋が側線下方にあるもの



*Zeus faber* スペイン領サハラ 1963



*Zeus faber* スペイン領サハラ 1967



*Zeus faber* スペイン領サハラ 1963



*Zeus pungio* サンマリノ 1966



*Zeus faber* トゴ 1964



*Zeus pungio* ユーゴスラビア 1966